

福島第一原子力発電所現地確認報告書

- 1 確認日
令和4年5月27日（金）
- 2 確認箇所
1～4号機タービン建屋東側
- 3 確認項目
日本海溝津波防潮堤の設置状況

4 確認結果の概要

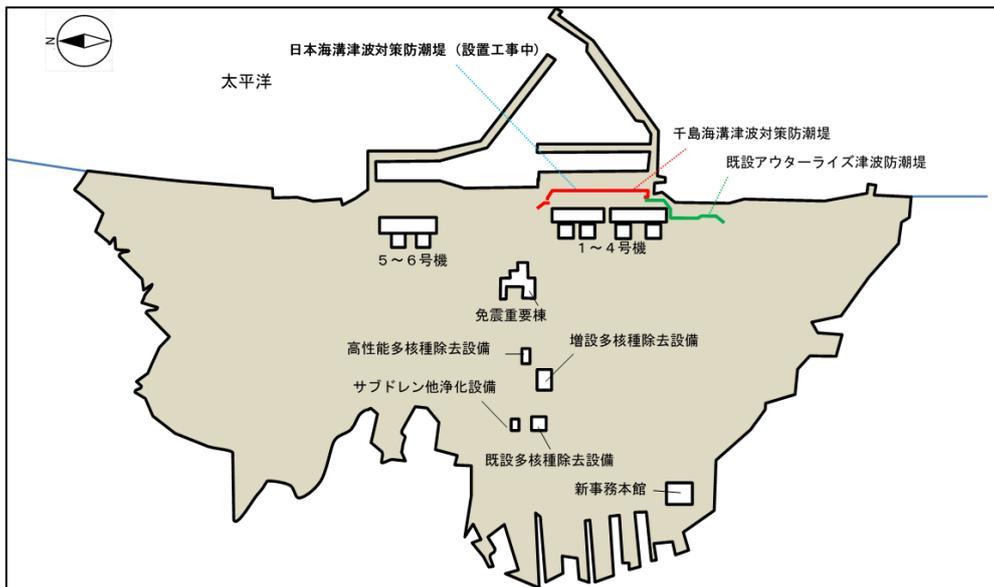
令和2年4月に内閣府「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデル検討会」が日本海溝津波の発生が切迫していると評価したことを踏まえ、東京電力では11.8m規模の日本海溝津波による建屋内滞留水の増加防止及び廃炉重要関連設備の被害軽減のため、防潮堤の設置を進めている。

本日は、前回（令和3年10月28日）に続き、工事の進捗状況を確認した。
（図1）

- ・日本海溝津波防潮堤の工事は、先に設置されている千島海溝津波防潮堤の海側で進められており、前回確認時には着手されていなかった防潮堤本体の工事が進捗していた。
- ・千島海溝津波防潮堤のL型擁壁に隣接する形で日本海溝津波防潮堤本体がテールアルメ工法^{※1}を用いて建設されており、壁面材であるテールアルメの設置と盛土材であるアッシュクリート^{※2}の打設が進められていた。（写真1）
- ・幅約5mの防潮堤本体の中には配管類を通すための金属製のU字状の枠が設置されていた。（写真2）
- ・2.5m盤から8.5m盤までの間の斜面の補強は防潮堤本体と同様にテールアルメ工法を用いて実施されており、前回確認時に積み上げ途中だったテールアルメは、一部のエリアにおいて計画の高さまで設置が完了していた（写真3）
- ・東京電力では、本防潮堤を令和5年度下期までに完成するとしている。

※1 テールアルメ工法：テールアルメ工法は、補強土壁工法の一つであり、ストリップと呼ばれる帯鋼と土との間に大きな摩擦が生じることを前提に、盛土材料中に補強材としてストリップを敷設する事によって、鉛直な法面を形成する。

※2 アッシュクリート：石炭灰（JERA広野火力発電所）とセメントを混合させた人工地盤材料。メガフロート工事でも使用されている。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)
日本海溝津波防潮堤本体のコンクリート壁面の設置状況
(南西側から撮影)



(写真1-2)
日本海溝津波防潮堤本体のアッシュクリート打設状況
(南西側から撮影)



(写真2)
金属製のU字状の枠の設置状況
(南東側から撮影)



(写真3-1)
斜面補強部の設置状況 (南東側から
撮影) 令和3年10月28日



(写真3-2)
斜面補強部の設置状況 (南東側から
撮影) 令和4年5月27日

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。